心のメッセージ

相互理解

先日、夕方のニュースを見ていた時、ラグビー日本代表の特集をやっていた。先月の9月8日からフランスで、ラグビーワールドカップが開催されており、日本も1次リーグ突破に向けて強豪国と戦っている。私はラグビーのルールすらよく分かっていないが、前回の2019年ラグビーワールドカップでは、日本代表が初のベスト8に輝き、日本中が大いに盛り上がっていたのを思い出した。

そのタ方のニュースでは、「田中　史朗（たなか　ふみあき）」選手がゲストとして出演しており、4年前のワールドカップの思い出をスタジオで話していた。

・田中選手：「各国代表のラグビー選手の平均身長は 185 ㎝、体重は 95 ㎏ほどです。僕は 166 ㎝、72 ㎏しかありませんが、日本代表として世界と戦うことができました。ラグビー選手にはそれぞれ、得意なプレースタイルがあり、ポジションによって求められる能力も違います。僕はスピードとパスを評価されて、日本代表に選ばれていました。そして、得意としているプレーは、タックルで倒れた相手選手からボールを奪う「ジャッカル」です。」

・キャスター：「大きな選手のふところに入り、ボールを奪う時は怖くないのですか？」

・田中選手：「もちろん怖いです。しかし、チームの仲間、日本のファンのみなさんの為に、自分の使命として無我夢中でタックルしていました。そして、**自分が相手にタックルすれば、必ずチームの仲間が続いてくれるのです。**「ONE TEAM」だからこそ、強い思いと、仲間への信頼感でボールを追いかけることができました。」

この田中選手とキャスターの会話を聞いて、私は自分の生活と重ね合わせて考えていた。

私は大学卒業後、エンジニアとして民間企業に就職し、社会人としての生活をスタートさせた。その会社での仕事は残念ながら長続きせず、3年で辞めてしまった。辞める決断をした理由は様々あるが、一番の理由は、職場の人間関係だったと思う。職場の同僚、先輩と良好な関係を築けず、同じ開発プロジェクトのメンバーとさえ、衝突していた。私は会社でチャレンジすること、仲間と共に成長することを諦め、逃げるように会社を辞めてしまった。

その後、いろいろと回り道をしたが、中学校の教員になり、現在、この野村中学校で勤務している。野村の職員室は、田中選手の『**相手にタックルすれば必ずチームの仲間が続いてくれる**』そんな雰囲気の集団だと感じている。だからこそ、職員全員で支え合い、野村の生徒が中学校3年間で大きく成長できるように様々な取り組みを考え、チャレンジしている。そして何より、全員が野村の生徒を大切に思って働いている。

みんなは、自分の家族、自分の友達、自分の学年、クラス、部活動などの集団で、お互いを理解し、支え合うことができているだろうか。それぞれの集団で、「仲間と一緒なら」と、思うことで一歩前に進める。そのような集団を築いてもらいたいと思う。

年　　組　　名前